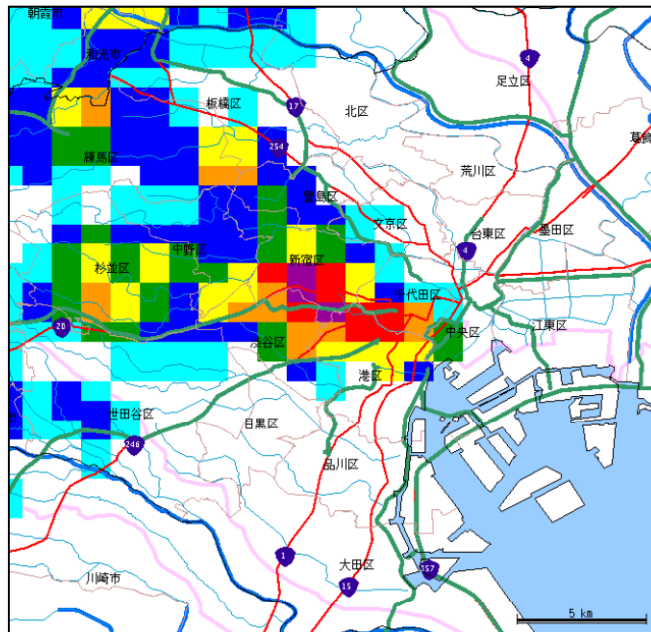


1. XバンドMPLレーダについて

- 都市域等に高頻度、高分解能なXバンドMPLレーダを導入し、局地的な大雨(いわゆるゲリラ豪雨)や集中豪雨の被害低減に向けた実況観測を強化します。
- 従来レーダ(Cバンドレーダ)に比べ、高頻度(5倍)、高分解能(16倍)での観測が可能です。また、これまで5~10分かかっていた配信に要する時間を1~2分に短縮しております。
- 平成22年3月末までに三大都市圏等(関東、中部、近畿、北陸)に計11基を整備しました。今後、九州地方、中国地方等への整備を進める予定です。

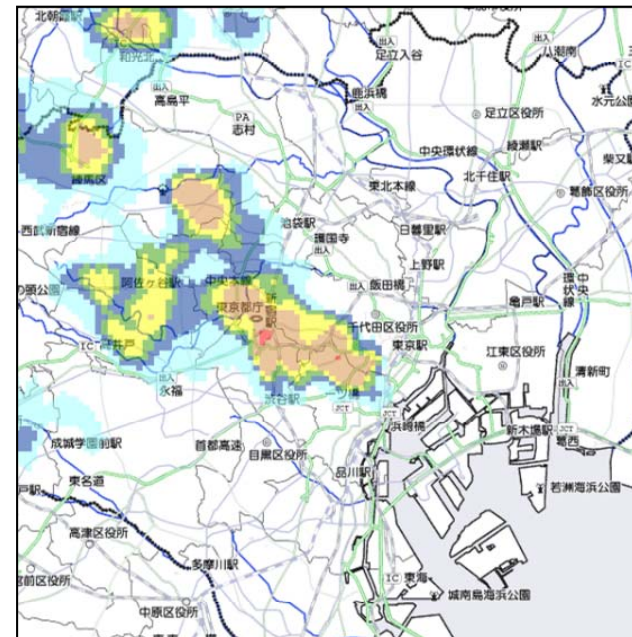
【既存レーダ(Cバンドレーダ)】

(最小観測面積:1kmメッシュ、観測間隔:5分
観測から配信に要する時間 5~10分)



【XバンドMPLレーダ】

(最小観測面積:250mメッシュ、観測間隔:1分
観測から配信に要する時間 1~2分)



・高頻度(5倍)
・高分解能(16倍)

※Cバンドレーダ(定量観測半径120km)は広域的な降雨観測に適するのに対し、XバンドMPLレーダ(定量観測半径60km)は観測可能エリアは小さいものの局地的な大雨についても詳細かつリアルタイムでの観測が可能。

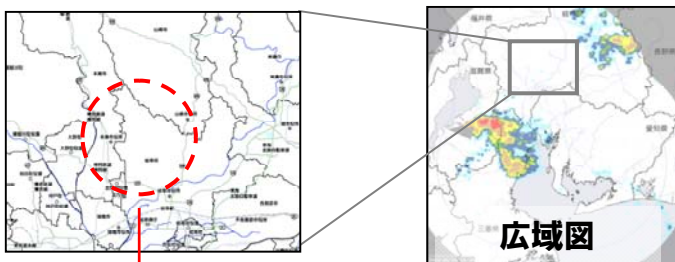
2. XバンドMPLレーダと既存レーダ(Cバンドレーダ)との降雨画像の違い

XバンドMPLレーダは、高頻度かつ高分解能での観測が可能であり、既存Cバンドレーダに比べ、より詳細かつリアルタイムでの観測が可能です。

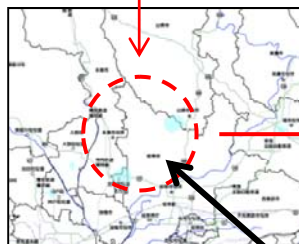
【2010年6月19日19時の降雨発達状況】

【XバンドMPLレーダ】

19:18



19:20

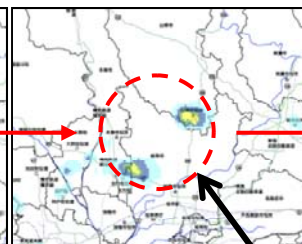


降雨を探知

19:22

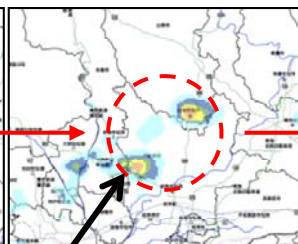


19:24

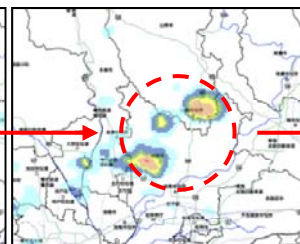


降雨の発達を観測

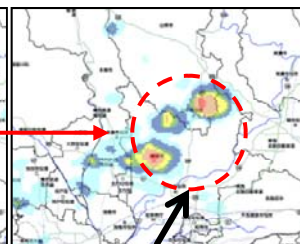
19:26



19:28

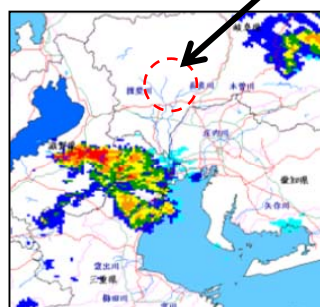


19:30



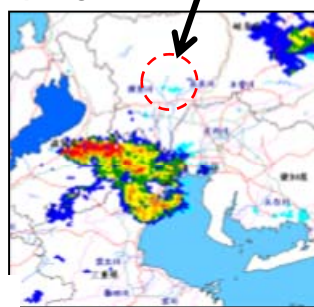
強雨域を観測

19:20



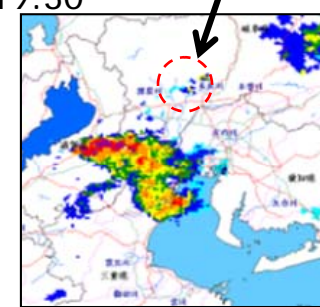
降雨は探知されず

19:25



降雨を探知

19:30



降雨を探知

【既存Cバンドレーダ】